

研修医しぐさ



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530

E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

令和8年3月発行

医師会って何? (第6弾)

日本医師会では、認定健康スポーツ医制度があります。健康スポーツ医の育成を担当している、和歌山県医師会理事の島欽也先生に御寄稿頂きました。御興味のある方は、是非医師会にお問い合わせください。定期的に講習会が開催されています。

日本医師会認定健康スポーツ医制度について

和歌山県医師会

理事 島 欽也

日本医師会認定健康スポーツ医制度について御紹介させて頂きたいと思っております。

近年のスポーツ人口の増加に伴い、発育期の幼児、青少年、成人、老人等に対する運動指導を含めて地域保健の中でのスポーツ指導、運動指導について、医師の果たす役割はきわめて大きくなってきています。

地域社会において運動への関心が高まってきていることから、運動を行う人に対して医学的診療のみならず、メディカルチェック、運動処方を行い、さらに各種運動指導者等に指導助言を行い得る医師の養成とその資質の向上が必要とされています。

地域保健活動の一環として都道府県の中のスポーツ医学に関与する医師の組織づくり、体制整備を行い、地域におけるスポーツ医ならびにその実践的活動の振興を図る必要があります。

このような経緯から日本医師会生涯教育制度の一環として、日本医師会では日本医師会認定健康スポーツ医制度を設けております。

本制度の円滑な運営を図るため、日本医師会に認定健康スポーツ医制度運営委員会を設け、日本医師会認定健康スポーツ医ならびに健康スポーツ医学講習会、健康スポーツ医学再研修会の審査等を行っています。

日本医師会長は、日本医師会が定める講習科目に基づく講習会を修了したと認められる医師が健康スポーツ医の称号を申請した場合には、審査の結果に基づきこれを付与することになっています。

健康スポーツ医としての登録有効期間は5年とされ、本

制度が将来一層活用されるためには健康スポーツ医が生涯を通じて資質の維持向上を務めることが極めて重要であることから、認定有効期限までに更新のための要件を満たした健康スポーツ医は認定証を更新できることになっています。

更新のためには認定を受け登録された日から5年間に次の①、②の要件を満たすことが必要とされています。

① 日本医師会が実施または承認した再研修会5単位以上の受講修了(1単位は60分とする)

② 健康スポーツ医としての活動(学校、職場、地域等におけるスポーツ医学の立場からの指導・教育・診療活動等)

和歌山県医師会におきましても、年に2回、日医認定健康スポーツ医学再研修会を開催しております。

健康スポーツ医活動は医療機関内の指導はもちろんのこと、学校医、産業医、健康なまちづくりの観点で活躍することが期待されています。近年、対象者のリスク保有状態に合わせたマップの作製、運動指導者と顔の見える関係づくりを構築することにより、検診受診者・保健指導対象者が運動を継続しやすい環境づくりを地域関係者とともに取り組むことが重要となってきています。

興味のある方は、和歌山県医師会事務局、郡市医師会事務局にお問合せ下さい。手続き等速やかに対応させていただきます。



令和8年度

自分らしい道を見つけるために

まろクリニック
院長 大浦 真紀



2001年に和歌山県立医科大学を卒業し、附属病院で研修医として働き始めました。現在は田辺市で腎臓内科と脳神経外科のクリニックを開業しています。

学生時代は将来の進路のことで頭がいっぱいでした。元々和歌山出身で、野心があるわけではなく、都会の大きな病院でバリバリ研修をしたいという気持ちはありませんでした。眼科は女性も多く、ロールモデルとなる先輩もいたので、いいなと思い選択しました。しかし研修医になってから手術に立ち合わせていただく中で両眼視ができないことが分かり、断念することになりました。幸い当時からスーパーローテート方式で研修先を自由に選ぶことができたため最終的にさまざまな分野に携わる血液浄化センターに入局しました。

研修医時代には体調を崩して入院して周囲に迷惑をかけた。妊娠中には長期の管理入院が必要になった時期もありました。周囲が忙しく働いている中、自分だけが立ち止まっているように感じ、焦りや不安がありました。

同期より1年遅れ出産後復帰した時には、腎臓内科の分野も診療する診療科となっており戸惑いました。なぜなら学生時代苦手意識の強かったのが腎臓内科だからです。

同期に他大学出身のとても優秀な先生がおり、できない自分を助けてくれました。本当に感謝しています。今も当時の仲間は仲良しです。

今までたくさんの先生方にお世話になる中で、一番心に残っていることは、たとえゆっくりでも進んでいけばいい。辞めないことが一番大事だよということです。

医師の道だけではなく人生は思い描いた通りには進まないことの連続です。

今、不安を抱えながら新しい一歩を踏み出そうとしている皆さんもいると思います。もし予定通りに進まなくても、自分の歩みを止めなければ、その道はきっとどこかにつながっ

ています。焦らず、比べすぎず、自分のペースで進んでください。

令和8年度

新臨床研修医オリエンテーション

毎年4月、和歌山県立医科大学において、新臨床研修医の先生方を対象に、医師会入会をお勧めするオリエンテーションを行っています。オリエンテーションでは、「医師会とは何か」「医師会がどのような活動を行っているのか」、そして「医師会に入会することの意義やメリット」についてお話ししています。

医師会は、国民の生命と健康を守ると同時に、医師が安心して医療に専念できる環境を整えるために活動している団体です。日本医師会の初代会長は北里柴三郎先生であり、その理念は現在まで脈々と受け継がれています。医師会という開業医中心の組織という印象を持たれがちですが、実際には会員の約6割は勤務医であり、若い世代の医師も多く参加しています。

医学は科学ですが、医療は制度であり、法律や診療報酬など多くのルールの上に成り立っています。現場で働く医師の声を制度に反映させるためには、医師会活動が非常に重要です。日本医師会、県医師会、郡市医師会が連携しながら、地域医療を支え、医療制度の改善に取り組んでいます。

また、医師会には医師賠償責任保険制度があり、民間保険と比べても手厚いサポートが受けられます。卒後5年間は日本医師会会費が無料となり、賠償責任保険も通常年額3万円のところ、半額の1万5千円で加入できます。研修医の先生方にとって、医師会入会は将来を見据えた大きな支えとなります。ぜひこの機会に、医師会への入会をご検討ください。



編集後記

昨年、女性初の総理大臣が誕生しました。年始には国会冒頭解散が行われ、社会全体が大きく動く一年の始まりとなりました。女性の社会進出は着実に進んでいるように感じられますが、医療の世界ではまだ道半ばと言えるかもしれません。

医療現場では多くの女性医師が活躍している一方で、制度づくりや意思決定の場に女性の声が十分に反映されているとは言い難いのが現状です。医療は制度の上に成り立っており、その制度をより良いものにしていくためには、現場の多様な意見が欠かせません。

医師会は、そうした声を集め、社会に届けるための大切な場です。医師会活動に参加することは、医療の未来を「決められる側」ではなく、「一緒につくる側」に立つことでもあります。性別や世代に関わらず、多くの医師が関わることで、医療の世界に新しい風が吹くことを期待しています。

(文責：和歌山県医師会 濱田 寛子)